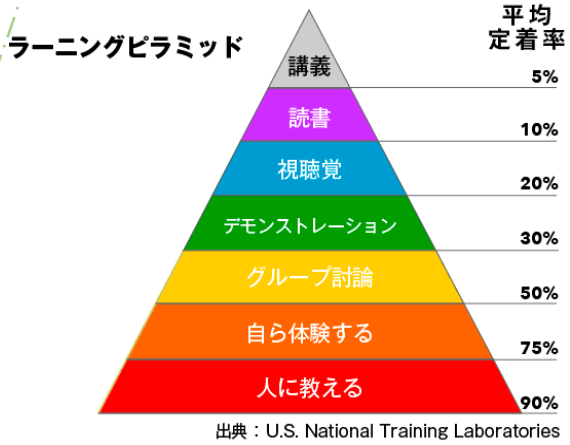
Evidence Based EBPM Policy Making
SYNERGY
第46回生 学年通信　第10号 2021/09/24

夏休みが明けました。北斗祭も終わり、一層自分の進路に真剣に向き合う時期となりました。

3．ラーニングピラミッド

学力の科学（主体性と定着率）

定着率―――どうすれば、覚えたことや、学んだことが記憶に残るのか―――。このシンプルな問いについては様々な研究があります。昨年度学年通信で紹介した「エビングハウスの忘却曲線」もその１つです（覚えた内容は平均して１時間後に約50%、１日で約70%忘れてしまうことを示した曲線）。今回は、学び方と知識の定着度の関係を表した、U.S National Training Laboratories が提唱するラーニングピラミッドと呼ばれる理論を紹介します。



出典：U.S. National Training Laboratories

定着のキーワードは**「主体性」**です。この理論によると人に教えることは非常に効果的な学習であることが伺えます。これは的を射ています。自分の中で整理できていなければ、人に教えることはできないからです。しかし勘違いしてはならないのは、定着率の視点でいうと**講義にも十分な効果がある**ことです。ではピラミッドにある学び方に定着率の違いがあるのはなぜでしょう。それは上に行くほど「受け身でも進んでしまう学習方法」だからです。上記のとおり、重要なのは主体性です。講義であっても積極的にメモをとると知識の定着率は跳ね上がります。したがって、**受け身でもできてしまう学習手段に甘んじたとき**、定着率が劇的に下がってしまうのです。ラーニングピラミッドが示しているのは、何事も取り組み方次第ということ。その学習形態にどう向き合っているかで定着率が変わるのです。

学ぶ姿勢が進路にどう結び付くか

学ぶ姿勢が主体的であれば、豊富な情報が手に入ることとなります。１を聞いて１を知る人がいる一方で、１を聞いて10を知る人もいるということです。これは、進路設計において大きなアドバンテージとなります。講義１つとっても例えばオープンキャンパスに参加したとき、受け身であれば説明以上の情報は手に入りません。一方で主体的に受講する姿勢があれば、そのオープンキャンパスでさらに疑問点を見つけて追究することができます。

また、「小論文が必要だ」と今の時点でわかっている場合、そのいろはを本などで主体的に探した生徒とそのまま何もしなかった生徒にはやはり差が生まれます。「取り組む姿勢１つでそんなに変わるのかな」と疑問に思っていませんか。変化の力を体感した人は既に自分を変えていますよ！　普段の授業や進路設計に主体的に取り組んでいきましょう。